

**授業概要**

子どもの感性を育み、子どもが環境から感じるイメージを表現する楽しさを養う為には、学生が自身の身体性と環境から受ける感覚や感性を理解し、自己表現を経験する必要がある。表現者として学生が自分自身を成長させ、保育者として表現活動を理解し、子どもの表現を引き出せるように授業を展開していく。演目を創作し、模擬保育として指導実施をする事で指導計画・環境設定・言葉かけなどを習得する。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション、子どもの環境と身体表現 <講義>
第2回	メディアと身体表現
第3回	表現あそび 伝承あそび
第4回	表現あそび 自然あそび
第5回	表現あそび 感覚あそび
第6回	表現あそび 生活場面から
第7回	表現あそび パラバルーン
第8回	模擬保育準備 作品創作の準備
第9回	実技テスト
第10回	模擬保育準備 作品を創作する
第11回	模擬保育準備 指導法を考える
第12回	模擬保育準備 指導案を書く
第13回	模擬保育①（対象：3歳児）による模擬保育の実践
第14回	模擬保育②（対象：4歳児）による模擬保育の実践
第15回	模擬保育③（対象：5歳児）による模擬保育の実践
第16回	模擬保育の振り返り、レポート提出

**到達目標**

- ・学生自身も表現者として「感じて・考えて・行動する」力を養う。
- ・子どもの感性・創造性を尊重し、共感し評価できる力を身につける。
- ・子どもを取り巻く環境を理解し、豊かな表現性を引き出す環境を作り出す力を身につける。
- ・模擬保育を通して指導計画・環境設定・言葉かけなどの実践力を身につける。

**履修上の注意**

- ・講義の指定がある時以外は実技である。運動をするのに望ましい服装・身だしなみで受講すること。室内用の運動靴を履くこと。
- ・遅刻は、やむを得ない場合 20 分以内で認めることがある。それ以降は欠席とする。遅刻は 3 回で欠席 1 回と同様の扱いをする。
- ・講義、実技を問わず筆記用具を持参すること。また、ノートを用意すること。（ノート提出有）

**予習復習**

予習：シラバスを確認し、自身の生活や子どもの生活を観察しイメージを膨らます。  
 復習：授業内容をノートにまとめる。

**評価方法**

授業内課題、模擬保育への取り組み、授業態度等の平常点50%。実技テスト30%。レポート20%。

**テキスト**

文部科学省『幼稚園教育要領』  
 プリントを配布する。  
 【参考文献】  
 平田智久・小林紀子・砂上史子編『最新保育講座 11 保育内容「表現」』、ミネルヴァ書房、2010年